「開拓の碑」

埼玉県所沢市・東川開拓

埼玉県の南西部に位置する所沢市は、都内までの交通の便が良く、人口は約 34 万人。中心部の所沢地区には高層マンションが建ち並び、大型商業施設も多い。同市東部の松郷（松井地区）、神郷（柳瀬地区）では、戦後開拓事業が実施された。

「開拓三十年」（１９７６年発刊）によると、入間郡所沢町（現・所沢市）と同柳瀬村（同）にまたがる民有林を開拓地として解放する話し合いが地元の農業委員会に持ち込まれたのは、46（昭和 21）年夏のことだった。開拓に反対する旧地主との調整が難航したが、47 年 10 月、復員者らの入植が承認され、開拓事業が開始された。

49 年１月、地区内を貫流する東川（あずまがわ）を名称とする「東川開拓農業協同組合」が発足。同年、第１次入植者 22 名に第２次入植者８名が加わり、組合員は 30 名となった。50 年、所沢町の市制施行を機に、開拓地の所沢分を松郷、柳瀬分を神郷と行政区域を分離した。

開墾は苦労が続いた。水源が乏しく、自給食糧の確保が困難だった。52 年、組合員の総力によって幹線道路が完成。53 年には電気工事に着工し、待望の電灯が導入された。63 年、畑地かんがい工事が完了。営農は畑作から水田、さらに畜産への道をたどった。現在、松郷及び神郷は主に住宅地となっているが、松郷霊園の付近には農用地が広がっている。

その霊園の敷地内に記念碑がある。77 年に「東川開拓友の会」が建立したもので、碑銘は「開拓の碑」（**写真**）。碑文には、開拓者の苦労が記されている。後段には、「当初より困苦に耐え、欠乏を忍んで、ひたむきの努力を重ねつつ、荒地と闘いながら、発展し続けてきた三十年の過去を回顧して、誠に感慨無量である。　ここに三十周年記念碑の建立にあたり、初代入植者の足跡を記すとともに、子孫の繁栄を願うものである」と刻まれている。

東川開拓　「開拓の碑」

①調　査　日　2022 年 11 月 29 日
②所　　在　所沢市
③地区の沿革　昭和 23 年 10 月に 30 戸が入植した。
④設置年月日　昭和 52 年３月
⑤設　置　者　東川開拓友の会
⑥碑　　名　入植 30 周年記念碑
⑦碑文（表面）　開拓の碑　旧所沢町と柳瀬村にまたがる一六〇ヘクタールの民有林を開拓地として解放する話は、昭和二十一年夏のことだった。当初、県の計画が地元の希望する計画と食い違ったため、開拓反対の声が両町村の旧地主の間に高まり解放の話し合いは難航した。二十三年十月ようやく地元の希望が承認され、入植者三〇戸増反者一五〇戸について、畑用地九〇ヘクタール、道路用地十ヘクタールの配分が決まり、所沢柳瀬地区の開拓事業が開始された。昭和二十四年一月入植者三〇戸を組合員として、東川開拓農業協同組合が設立され、二十六年、所沢町の市制施行を機に、開拓地の所沢分を松郷、柳瀬分を新郷と行政区域を分離した。昭和二十七年には組合及び増反者の総力によって、幹線道路が完成し、翌二十八年に待望の電灯が導入された。昭和三十八年には大型畜産農家も出現していたが畑地灌漑工事が施工され、受益面積は三〇ヘクタールに及ぶ施設が完成した。

　裸一貫の入植者が、住居、水、道路、電灯、食糧、衣料等、皆無より有　を生み出す営農の苦労は筆舌に尽せるものではなく、その上、天災は容赦なく襲ってきたが、当初より困苦に耐え、欠乏を偲んで、ひたむきの努力を重ねつつ、荒地と闘いながら、発展し続けてきた三十年の過去を回顧して、誠に感慨無量である。ここに三十周年記念碑の建立にあたり、初代入植者の足跡を記するとともに、子孫の繁栄を願うものである。　　昭和五十二年三月吉日

　　東川開拓友の会建立　　元埼玉県開拓連会長　西嶌道助　書

⑧碑文（裏面）　三十戸の入植者の氏名が刻まれている。
⑨現在の状況　松郷霊園内で管理されている。

開拓の碑
松郷開拓の碑